

富士川水系流域治水プロジェクト【位置図】

～甲府盆地をはじめとする富士川流域を水災害から守る流域治水の推進～

R3.3策定
R5.3更新

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により、甚大な被害が発生したことを踏まえ、富士川水系においても、急流河川であり洪水エネルギーが大きく侵食被害が頻発していることや、洪水浸水想定区域に人口が集中している流域の特徴を考慮して、事前防災対策を進める必要がある。
- 国管理河川区間においては、堤防強化等を推進するとともに、富士川、釜無川については戦後最大の昭和57年8月、笛吹川については昭和34年8月洪水と同規模の洪水から家屋の浸水を回避する。
- また、二線堤や霞堤の保全・整備等の浸水範囲を限定する対策や広域避難計画の策定などハード・ソフト一体となった総合的な対策を進めていく。

■氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- ・堤防強化、堤防整備、河道拡幅、河道掘削、放水路整備等
- ・利水ダム等の事前放流
- ・下水道に関する排水施設の整備
- ・砂防堰堤等の整備(いのちとくらしを守る土砂災害対策)
- ・森林整備、治山対策
- ・海岸保全施設整備の推進
- ・雨水流出抑制施設の整備
- ・農業水利施設の整備

堤防強化の例



砂防関係施設の整備例



- 凡例
- 大臣管理区間
 - 利水ダム等

森林整備・治山対策、砂防堰堤等の整備(いのちとくらしを守る土砂災害対策)

■被害対象を減少させるための対策

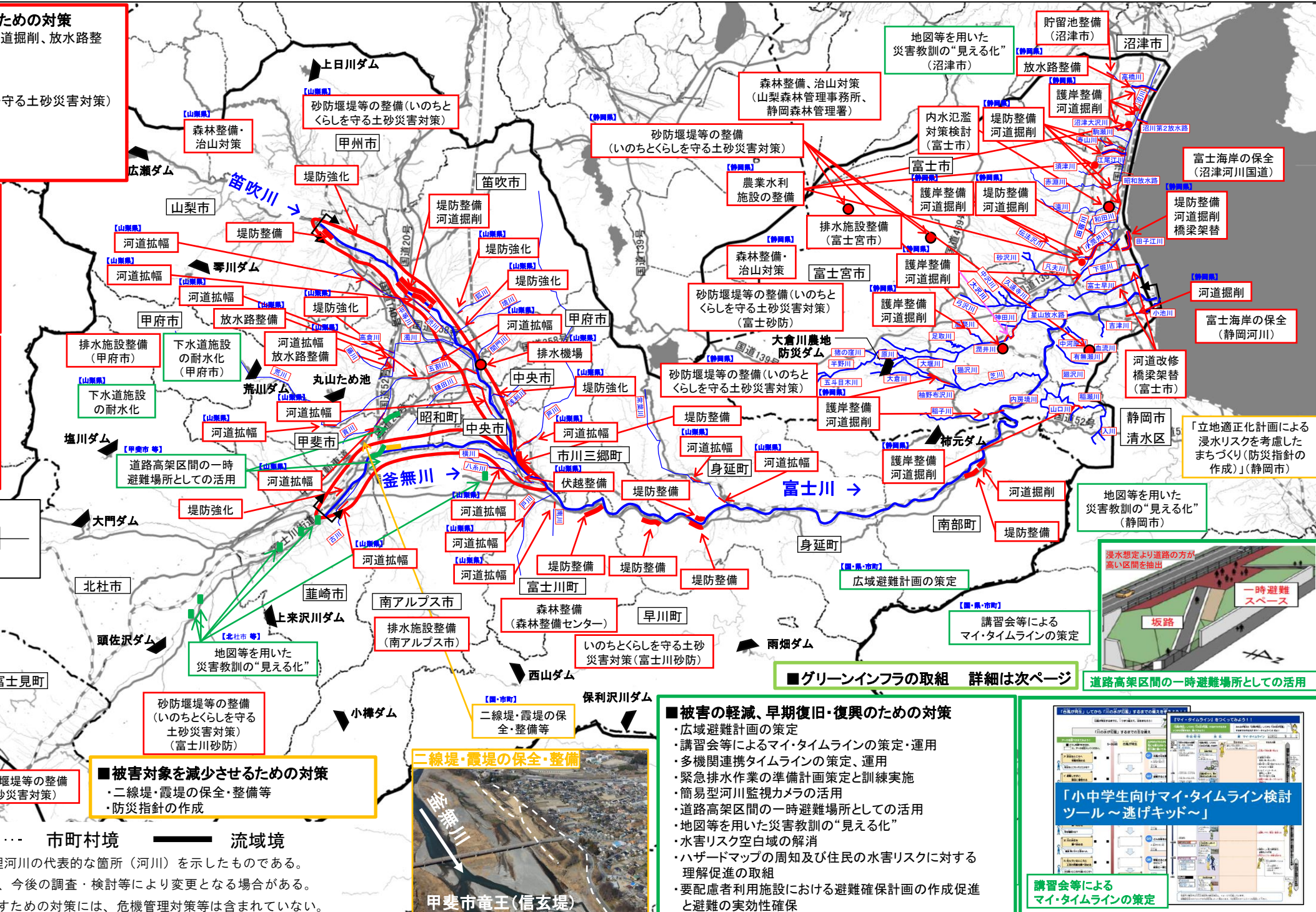
- ・二線堤・霞堤の保全・整備等
- ・防災指針の作成

--- 県境 --- 市町村境 --- 流域境

※**〇〇川** は、県・政令市管理河川の代表的な箇所(河川)を示したものである。

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

※氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策には、危機管理対策等は含まれていない。



■グリーンインフラの取組 詳細は次ページ

■被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- ・広域避難計画の策定
- ・講習会等によるマイ・タイムラインの策定・運用
- ・多機関連携タイムラインの策定・運用
- ・緊急排水作業の準備計画策定と訓練実施
- ・簡易型河川監視カメラの活用
- ・道路高架区間の一時避難場所としての活用
- ・地図等を用いた災害教訓の“見える化”
- ・水害リスク空白域の解消
- ・ハザードマップの周知及び住民の水害リスクに対する理解促進の取組
- ・要配慮者利用施設における避難確保計画の作成促進と避難の実効性確保

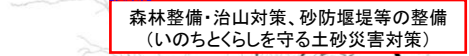


R4.3策定

R5.3更新

○富士川水系は自然豊かな河川であり、その自然環境の保全をするとともに、人と自然がふれあえることを目的とした、水辺整備が求められています。
○富士川水系では水辺のにぎわい空間の創出をするため、かわまちづくりと連携した水辺整備事業を進めています。
また、工事の実施時においても自然石を用いた護岸整備を行うなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの取組を推進します。

- 【全域に係る取組】
- ・地域のニーズを踏まえ、潤いと安らぎのある河川空間の保全



 県境
 市町村境
 流域境

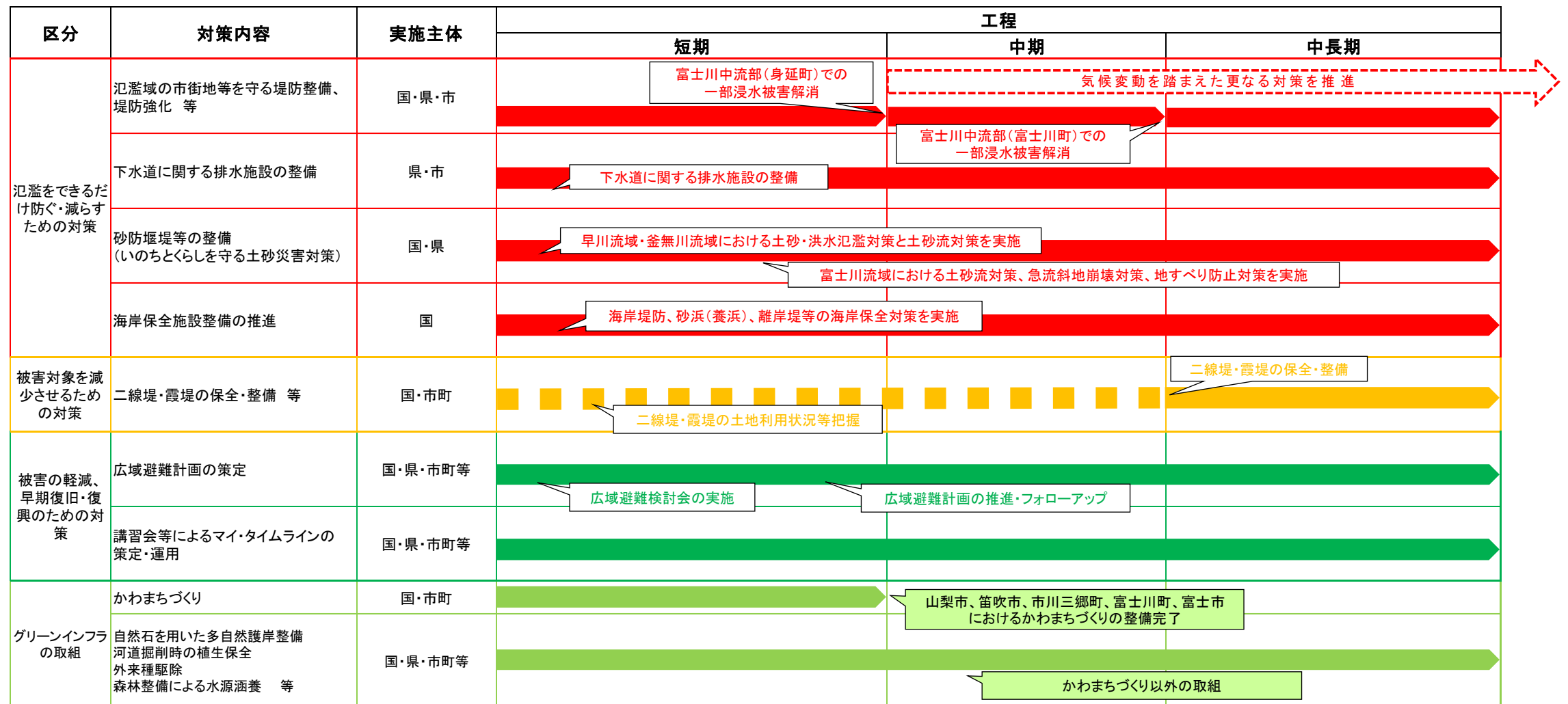
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

富士川水系流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～甲府盆地をはじめとする富士川流域を水災害から守る流域治水の推進～

R3.3策定
R5.3更新

- 富士川では、上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町が一体となって、以下の手順で「流域治水」を推進する。
【短期・中期】 富士川の中流山間部での家屋浸水被害の発生を未然に防ぐため、無堤部における堤防整備を実施。
【中 長 期】 甲府盆地や加島平野の市街地の浸水被害を防ぐため、堤防強化や河道拡幅・河道掘削等を実施し、流域全体の安全度向上を図る。
- あわせて、急流河川であり、洪水浸水想定区域に人口が集中している流域の特徴を踏まえ、二線堤や霞堤の保全・整備等の浸水範囲を限定する対策や流出抑制対策等の流域における対策、広域避難計画の策定及び講習会等によるマイ・タイムラインの策定・運用等のソフト対策を実施。



※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。 ※ ■■■■■ : 対策実施に向けた調整・検討期間を示す。

■河川対策 約652億円 氾濫域の市街地等を守る堤防整備、堤防強化等	■砂防対策 約1,674億円 砂防堰堤等の整備(いのちとくらしを守る土砂災害対策)	■下水道対策 約3億円 下水道に関する排水施設の整備、施設の耐水化	■海岸対策 約148億円 海岸保全施設整備の推進
---------------------------------------	--	--------------------------------------	-----------------------------

富士川水系流域治水プロジェクト

～甲府盆地をはじめとする富士川流域を水災害から守る流域治水の推進～

進捗と効果(R5.3版)

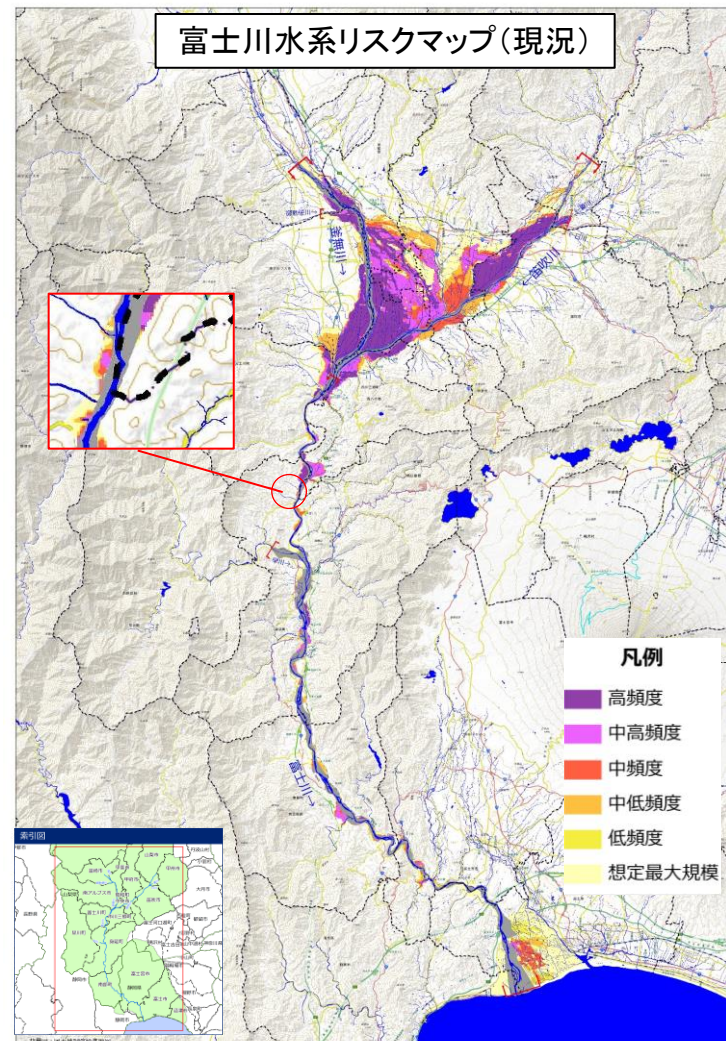
手打沢地区の堤防整備が令和7年度までに完了することで身延町の一部浸水被害を解消することが可能。
令和8年度までの木島地区河川防災ステーションの完成に向け整備する。
釜無川、笛吹川における侵食対策を進める。

短期整備効果（5カ年加速化対策）：河川整備率 約91%→約91%（整備計画規模）

現在

R3.5末

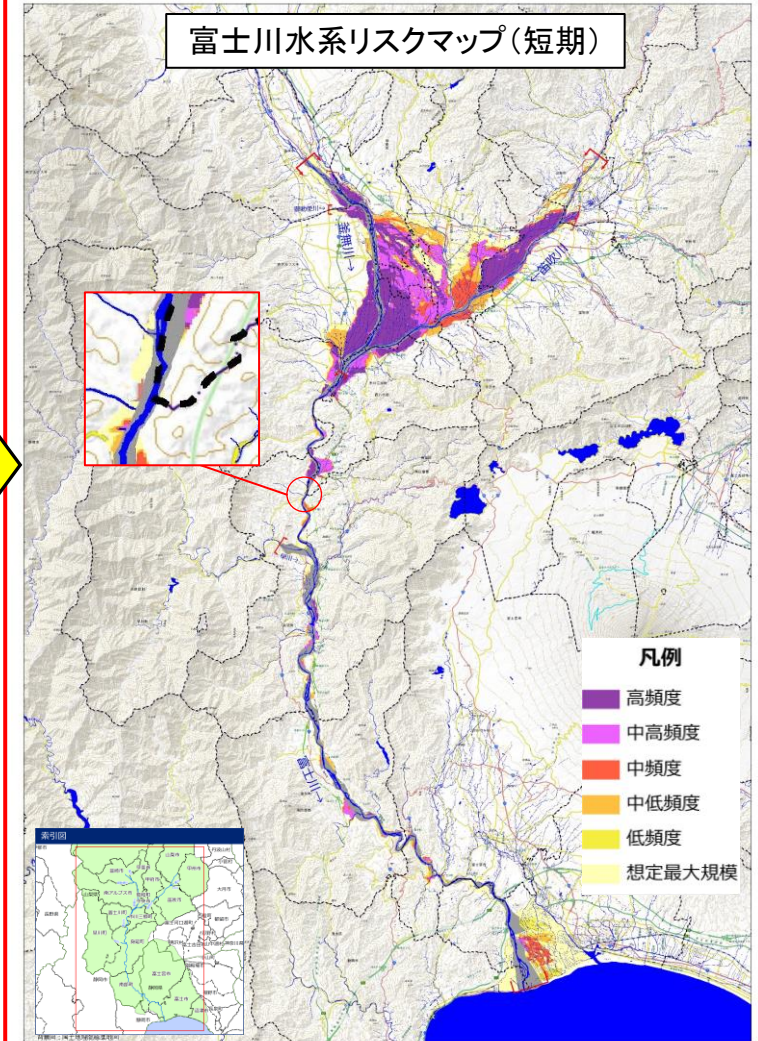
富士川水系リスクマップ(現況)



短期

R8.3末

富士川水系リスクマップ(短期)



短期実施メニュー・赤字
整備計画残メニュー：緑字

区分	対策内容	区間	(短期(R3～R7年))	中期	中長期(～R18年)
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策(国)	堤防整備	①手打沢・切石地区			100%
		②鬼島地区			100%
		③富士地区			100%
		④宮木地区			100%
		⑤飯富地区			100%
		⑥高田地区			100%
		⑦成田地区			100%
		⑧岩手地区			100%
	堤防強化(侵食対策)	①釜無川地区			100%
		②笛吹川地区			100%
	河道掘削	①十島地区			100%
		②石和地区			100%

※スケジュールは富士川の安全度を段階的に向上していくため、目標をしめしたものであり、今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

注：洪水浸水想定区域図作成マニュアル(第4版)、急流河川における浸水想定区域検討の手引きに基づき、富士川(直轄管理区間)が氾濫した場合に、浸水深が0cmより大きい浸水範囲をシミュレーションにより予測したものである。
注：想定最大規模については、平成29年3月に公表した洪水浸水想定区域図である。
注：外水氾濫のみを想定したものであり、内水氾濫を考慮した場合には浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる場合がある。
注：国直轄事業の実施によるものであるが、今後の事業進捗によって変更となる場合がある。

算出の前提となる降雨

富士川下流域の2日雨量

高頻度(1/10):248mm 中高頻度(1/30):307mm 中頻度(1/50):335mm
中低頻度(1/100):372mm 低頻度(1/150):394mm 想定最大規模:565mm

富士川上流域の2日雨量

高頻度(1/10):207mm 中高頻度(1/30):259mm 中頻度(1/50):283mm
中低頻度(1/100):315mm 想定最大規模:632mm

富士川水系流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～甲府盆地をはじめとする富士川流域を水災害から守る流域治水の推進～

R3.3策定
R5.3更新

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備(見込)



整備率: 91%

(概ね5か年後)

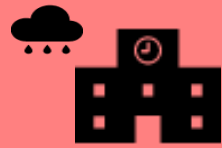
農地・農業用施設の活用



3市町村

(令和4年度末時点)

流出抑制対策の実施



21施設

(令和3年度実施分)

山地の保水機能向上および
土砂・流木災害対策



治山対策等の
実施箇所 79箇所
(令和4年度実施分)

砂防関連施設の
整備数 2施設
(令和4年度完成分)
※施工中 23施設

立地適正化計画における
防災指針の作成



0市町村

(令和4年12月末時点)

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水想定
区域 25河川

(令和4年9月末時点)
※一部、令和4年3月末時点

内水浸水想定
区域 0団体

(令和4年9月末時点)

高齢者等避難の
実効性の確保



洪水 2113施設
避難確保
計画 土砂 356施設
(令和4年9月末時点)

個別避難計画 14市町村
(令和4年1月1日時点)

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

【河道改修】



富士早川の河川事業進捗(富士市)



新沼川放水路の整備状況(静岡県)

【砂防堰堤等の整備】



安居山沢右支川
砂防堰堤(静岡県)



塩島沢堰堤群
(富士川砂防事務所)

氾濫を出来るだけ防ぐ・減らすための取組として、富士早川における河川整備や流域内各所において砂防堰堤の整備が進められています。

【雨水流出抑制施設の整備】



貯留槽の整備事例(富士市)



雨水貯留浸透枡整備事例(昭和町)

民間の宅地等整備時における貯留槽整備や、雨水貯留浸透枡整備の為の補助事業を実施する取組がされています。

被害対象を減少させるための対策

【土地のリスク情報を充実】



日常生活を送るなかで、想定される浸水をその地域の方々が現地で確認できる様、目印を設置。
(中央市)



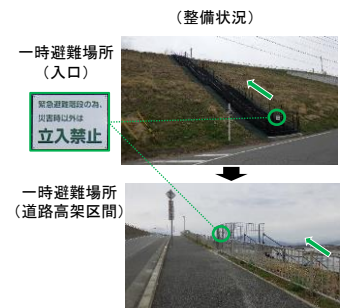
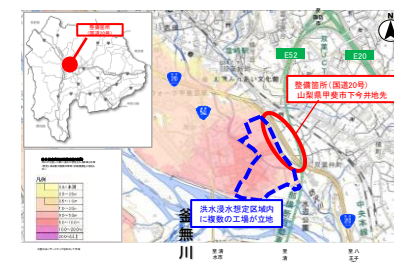
【霞堤の整備と保全】



・霞堤の整備と保全に向けた検討を行うため、上空より斜め写真を撮影し、現在の周辺土地利用状況把握。
・今後、個別霞堤毎に期待される効果の検討などを行っていく予定。
(甲府河川国道事務所)

被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

【道路高架区間の一時避難場所としての活用】



浸水時の緊急避難路として道路の高架区間に避難階段を設置(国道20号(甲斐市下今井地先))
(甲府河川国道事務所)

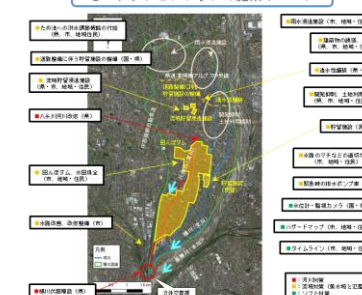
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策 被害対象を減少させるための対策 被害の軽減、早期の復旧・復興のための対策

【山梨県流域治水推進会議】

流域治水対策推進基本方針の策定 (R3.6.14)
目標や検討の進め方などの基本的な方針を策定

モデル小流域における対策メニューの検討
検討過程での課題を検証、他の小流域へ展開

○ アクションプランの施策イメージ



「流域治水検討会」
県関係部署、国、市町村を構成員とした小流域での流域治水対策アクションプランの策定や、対策を実施するための検討会を横川など3流域で実施。